

3. 島の現状と課題

(1) 定住条件の整備

①全国の離島における取り組み例

1)周防大島定住促進協議会

～リアルな島暮らし体験や家計講座の実施など～

●定住促進は移住者のためではなく島のため

→定住促進は島外向けのPRを優先しがち。しかし、住民の理解や協力が得られてはじめて、本当の定住戦略を練ることができる。まずは地域の理解から。

●移住希望者の島暮らしに対するイメージを崩す

→島暮らしのリアルを知ってもらう。「自然がきれいです」など、どこの田舎でも当てはまることは言わない。

●お試し暮らしの「島時々半島ツアー」の実施

→観光名所巡りなどは一切なし。学校やスーパーの案内や、実際に移住した人の話など、本当に暮らしに必要な情報を提供。医療機関の説明や移住後のマネー講座も実施。

●ファイナンシャル・プランナー(FP)によるライフプランニング支援

→単に定住支援の補助金を出すよりも、毎月節約できる経費をアドバイスしてあげる方が健全なサポート。



移住相談窓口で相談を受けるのはFPで周防大島定住促進協議会相談員のいづたにかつとしさん。



島時々半島ツアーの様子。島の暮らしの実情を知ることができる。

○2019年10月現在、「島時々半島ツアー」を20回の開催し、223名が参加。うち32組66名が移住。

○このほか、グリーンツーリズム商品コンテストで優秀賞受賞。全国移住ナビで開催された地方創生動画コンテストで総務大臣賞など



2) 鹿児島県十島村

～生活環境の向上や産業振興の促進～

【生活環境】

●簡易郵便局や給油所の開業

→平成30年、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島の簡易郵便局開局により、全島に簡易郵便局が整備。

→平成30年、宝島給油所開業。令和2年の完成を目指し悪石島給油所を整備中。

●全島看護師2名態勢の実現

→令和元年度より。看護師の負担軽減や住民の不安の解消へ。また、遠隔医療システムを使った死亡診断の取り組みも実施。

●役場内に福祉事務所を設置

→平成31年4月、迅速な福祉サービスの実現へ向け設置。九州の村で初めて。

●介護施設の整備

→近年、小規模多機能ホーム「たから」(宝島)、高齢者支援施設「ビロウの家」(悪石島)、「アダンの里」(小宝島)、介護施設「くつろぎの郷」(中之島)、高齢者サロン「なごみの里」(口之島)などを整備。

●小中学校分校の本校化

→平成28年、平島小中学校諏訪之瀬島分校および宝島小中学校小宝島分校が廃され、それぞれ諏訪之瀬島小中学校、宝島小中学校に。

●保育施設や離島留学生寮の整備

→平成29年、離島留学生向けの「平島寮」完成。諏訪之瀬島の寮は、令和2年4月に開設予定。

→平成30年11月、平島の「たいらっこ園」の開園により、全島に保育施設の整備が完了。

●全島に外国語指導助手(ALT)を配置

→令和2年度からの小学校の英語教科化に向けて、同元年9月、全島にALTを配置完了。

【産業振興】

●急速冷凍加工施設の整備

→平成24年、中之島および宝島に導入。フェリー便の運航に規定されない流通経路が誕生し、水揚量・金額が増加。

●就業者育成事業奨励金

→就労者の定着化を支援。村内で農林水産業等に従事する日数に応じて奨励金を支給。

●農業ボランティアや移住希望者向け宿泊施設の整備

→令和元年10月、悪石島に完成。

②主な課題

1)住宅

●空き家・空き地はあっても貸家はない

- 物件が未登記のため家主を特定することが困難。
- 家主が島外にいるなど、不在家主が増えている。
- 空き家を貸し出すための修繕・改修費用負担が大きい。ほか

●入札不調で建設できない

→座間味村に住みたいという人はいるが、村内に住む家がない。定住促進住宅を建てる予算はついても、入札が不調に終わることが非常に多く、整備が進まない(令和元年11月19日ヒアリング)。

→渡嘉敷島への移住希望者は増えているが、島内に住宅がない。職員住宅は完成したが、空き家活用事業などを行おうにも入札不調となり、予算がついても整備できない状況(同20日ヒアリング)。

2)教育

●島の学校の存続

→子育て世代の移住希望者の7割が教育環境を気にするなど、教育は交通、医療に次ぐ重要な定住要素(国交省離島振興課「平成25年度新しい離島振興施策に関する調査」)。小中学校・高校の維持・存続が鍵。

●教員数が少ない／専門教員に限られる

- 教員の多忙化により、教育機能の低下が懸念される。
- 例えば、日本史の専門教員が世界史を指導するケースや、教員がいないため物理を選択できないケースも。



小豆島移住ガイドツアーでの空き家見学の様子。小豆島・豊島で定住支援に取り組むNPOトイエによると、近年では「貸すのではなく、手放したい」という家主も出てきている。ただし、移住者が初めての土地ですぐに家を購入するケースは稀で、需給のミスマッチも起こってきている。



島根県立隠岐島前高校。平成20年頃に統廃合の危機の危機に陥ったが、高校魅力プロジェクトなどの実施により、1学年1クラスが1学年2クラスになるほどV字回復。離島留学の入試倍率は約2倍に。

○離島留学や高校魅力化の実施

○教員の加配措置

○ICTの活用による遠隔授業の実施や公営塾の開設

○島ならではのカリキュラム(地域課題解決型学習など)の実施

(2) 離島間・外国との連携交流の強化

① 離島間の連携交流(自治体の枠を超えるもの)

1) 三島交流会(佐渡島・粟島・飛島)

山形県飛島、新潟県粟島・佐渡島の3島の住民や、離島振興関係者などの交流を促進し、地域資源を活用した島づくりを互いに学ぶため、平成19年度より3島持ち回りで開催。

2) 愛らんどリーグ(伊豆諸島・小笠原諸島)

東京都伊豆諸島・小笠原諸島各島の小学生チームによる年に1度のサッカー(フットサル)大会。大会初日の恒例行事として、「島じまん発表会」が行われ、参加選手が自分たちの島の特徴を歌や踊りなどでPRするなど、親睦にも力を入れている。

② 国際交流

● 三島村とギニア共和国

硫黄島には西アフリカの民族太鼓ジャンベを学ぶ日本で唯一の「ジャンベスクール」があり、毎年国際ワークショップを開催している。第一人者のママディ・ケイタ氏(ギニア共和国)およびその教え子など、ギニアを中心に世界からジャンベのリーダーが集う。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、同国のホストタウンにもなっている。

三島村では教育カリキュラムとして、各小中学校で年数回のジャンベ教室を開催している。



令和元年度の三島交流会は、粟島で実施。西海岸で名物の「わっぱ煮」に使われている石の説明会を受ける参加者たち。



八丈島で開催した令和元年度の愛らんどリーグには、都内島しょ地域の8町村9島10チームが参加した。



③主な課題

1)キーパーソンの確保

●コーディネーター

→交流する各地域の自然環境、伝統文化などについて知悉しているコーディネーターの役割を果たす人材の確保。

●交流プログラムなどを提供する人材

→島ならではの交流プログラムの開発およびそれを提供する人材の確保。

2)目的の明確化

●なぜ交流を継続していかなければならないのか

→地域や地域住民にとってのメリット(交流を継続していく意義・効果)を明確に。

→単なるイベントではなく地域づくりや地域への還元という視点を。

3)交流に係るコスト

●費用面

→国や地方自治体の支援などの活用が重要。

●天候・日程面

→離島での交流は天候や海象条件に非常に大きく左右される(欠航リスク)。

→船や飛行機の就航時間に合わせなければならないなど本土と比較して制約が多い。

●人材面

→高齢化などで、島の住民だけでは十分な受け入れ態勢が確保できない可能性も。

(3) 観光・リゾート産業、農林水産業、食品加工業等の振興

①島の観光の概要

・近年、世界自然遺産の小笠原諸島や屋久島、世界ジオパークに認定された隠岐諸島、国立公園に指定された慶良間諸島や奄美群島、110万人以上の来場者を集めた瀬戸内国際芸術祭、米国の環境保護NGO「ONE GREEN PLANET」が2014年に発表した「死ぬまでにみるべき世界の絶景13」に日本で唯一選ばれた青ヶ島など、離島観光が注目されており、観光客数は回復傾向にある。

- ・SNSなどによる情報発信(口コミ)効果も大。
- ・観光客の伸びている島もあるが、日帰りが多く、延宿泊数は減少傾向。日帰りの場合、観光消費額の増加に直結しないことも。
- ・また地域の意向に沿わない開発行為などによるオーバーツーリズムなども見られる。
- ・離島観光の隘路は、高額な航路旅客運賃。定期船等の航路運賃はJR運賃の倍で、高速船の料金は在来特急や新幹線以上に高額。
- ・現在、航路運賃の住民割引はあるが、観光客向けの割引はなどはない。

離島の観光客と延宿泊者数の推移



注1)平成28年4月1日現在の離島振興関係4法の指定離島に限る
 注2)平成22年以前は、滋賀県沖島、岡山県前島、広島県似島、香川県小豆島・沖之島・直島・与島・大島、愛媛県興居島を除き、兵庫県淡路島の一部、鹿児島県新島を含む
 注3)観光客数は船舶、航空機の利用から集計したもの
 出典)『離島統計年報2017』(日本離島センター)ほか

事例による輸送手段別コストの比較

	フェリー	ジェット フォイル	JR在来線	JR普通特急	新幹線	高速バス
区間	新潟～両津	新潟～両津	東京～熊谷	東京～八街	東京～熊谷	東京駅～秦野
距離	67.2km	67.2km	64.7km	65.9km	64.7km	69.6km
運賃	¥2,420 (2等)	¥6,510	¥1,170	¥2,120 (運賃¥1,170+ 特急料金¥950)	¥3,250 (運賃¥1,170+特 別料金¥2,080)	¥1,120
当 た り 運 賃	¥36	¥97	¥18	¥32	¥50	¥16
時間	150分	60分	70分	56分	38分	70分

②観光活動の事例

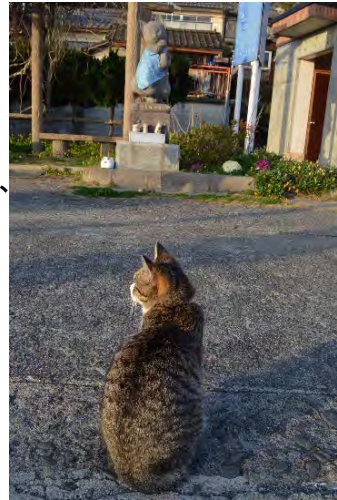
1)動物の島



宮城県石巻市田代島は「猫の島」と言われるほど、島内には多くの猫たちが暮らしている。猫が祀られた「猫神社」は国土交通省『島の宝100景』に選定。近年、猫を目当てとした観光客が増えている。



熊本県上天草市湯島。地元メディアや雑誌、ウェブサイトなどで猫の島として紹介され、知名度が高まっている。



愛媛県大洲市青島。人口15人ほどの島に100匹以上の猫がいる。



広島県竹原市大久野島。戦前は砲台と毒ガス製造工場が置かれた。現在、ウサギが約700匹生息。国内外から年間10万人の観光客が訪れる。



東京都御蔵島の周辺の海域には野生のミンミバンドウイルカが群棲している。イルカと一緒に泳ぐドルフィンスイムやイルカウォッチングが島観光の目玉になっている。



福岡県新宮町相島は、米国CNNが選ぶ「世界6大猫スポット」に選出されたことから猫目当ての観光客が急増中。



2) 現代アート of 島

愛知県西尾市佐久島では、1996年からアートと生活の融合をコンセプトに島づくりをはじめ、今では島中に作品が点在する。作品をたどりながら島内をめぐる「アート・ピクニック」や大正時代に建立された弘法様と、アートの力によってリノベーションされた弘法様を巡る「アートな弘法巡り」なども開催。2018年は101,833人が訪れた。



松岡徹作の「海神さま」。



南川祐輝作「おひるねハウス」。潮風から家屋を守るためコールタールで外壁を塗った島の伝統を受け継ぐ。映画版アニメ名探偵コナン『天空の難破船』にも登場。近年ではコスプレヤーの来島も多い。

南川祐輝作「イーストハウス」。作品名の由来は東地区にある東屋から。対岸に見える「おひるねハウス」とは対照的な白い箱。



3年ごとに開催される「瀬戸内国際芸術祭」の会場は、期間中、多くの観光客で賑わう。2013年の来場者数は、全体で1,070,368人、16年は1,040,050人、19年は1,178,484人と毎回100万人を越える。



2019年は、香川県直島・豊島・女木島・男木島・小豆島・大島・沙弥島・本島・高見島・粟島・伊吹島、岡山県犬島、高松港および宇野港周辺などに作品が展示された。

3) スポーツの島

新潟県佐渡島一周210kmの完走を目指す「佐渡ロングライド」。2019年で14回目を数え、リピーターも多い。エイドステーションで振る舞われる「地元食材を使用した食事」も魅力。



35年以上の歴史を誇る沖縄県宮古島のトライアスロン大会。スイム3km、バイク157km、ラン42.195km。



「トカラ列島島めぐりマラソン大会」は、村営フェリーを利用し、鹿児島県十島村(トカラ列島)の有人7島を走るユニークなマラソン大会。



鹿児島県三島村で平成2年より開催しているヨットレース。枕崎港沖をスタートし、竹島港沖に設置されたゴールを目指す。夜の打ち上げパーティーの盛大なこともヨットマンの間では知られている。

「奄美シーカヤックマラソンIN加計呂麻大会」は、鹿児島県瀬戸内町の奄美大島と加計呂麻島の間に横たわる大島海峡をステージに開催される国内最大規模のシーカヤック大会。



鹿児島県種子島はサーフィンで有名。プロの大会も開催されている。サーフィンをするために移住するサーファーもいる。

4)しま山

海に囲まれた島の山々の個性や魅力にスポットをあて、全国の島々を対象に、2016年に日本離島センターが「しま山100選」を選定。「しま山」を通じて、訪れる人にも、島の人にも、海だけではなく島の魅力を再発見してもらい、交流の促進につなげていくことがねらい。



『しま山100選』（モンベルブックス）も好評発売中。



イラスト：鈴木ともこ



左上：東京都八丈町八丈島「八丈富士」の天空の道。右上：広島県廿日市市厳島（宮島）「弥山」山頂にあるミステリーサークル。左下：愛媛県上島町岩城島「積善山」は桜の名勝と知られる。右下：鹿児島県十島村中之島「御岳」山頂からは太平洋を望む。

5)アイランダー



全国の島々が一堂に会する年に一度のイベント。各ブースでは、島の方から直接観光や島の暮らしなどの情報を聞くことができる。また、島の特産物の販売や、島の郷土芸能を観賞できるステージなどもある。

27回目となったアイランダー2019は、11月23-24日に開催され、北海道から沖縄まで79団体約190島の出展があった（島外団体含まず）。2日間の来場者数は約11,000人。



補論—将来を見すえて

・観光素材は豊富

→海に大きくせり出した巨大な岩の架け橋。岩石の中央部が海蝕作用によってえぐりあげられたもので、大自然が創り出した造形美を楽しむことができる。

↓摩天崖。海拔257mの大絶壁。海蝕作用によって出来た崖では日本有数の高さを誇り、周辺一帯の放牧地では、牛馬がのんびり草を食む姿が見られる。夕陽百選のほか、摩天崖から通天橋への遊歩道は、一生に一度は訪れたい「遊歩百選」認定。
ともに島根県西ノ島町西ノ島。



ex. ジオパーク認定の島

【世界ジオパーク】

・隠岐ジオパーク(島根県隠岐の島町・西ノ島町・海士町・知夫村)

【日本ジオパーク】

- ・鳥海山・飛島ジオパーク(山形県酒田市飛島を含む)
 - ・佐渡ジオパーク(新潟県佐渡市)
 - ・伊豆大島ジオパーク(東京都大島町)
 - ・おおいた姫島ジオパーク(大分県姫島村)
 - ・天草ジオパーク(熊本県天草市御所浦島ほかを含む)
- ※2020年4月認定返上予定)
- ・三島村・鬼界カルデラジオパーク(鹿児島県三島村)
 - ・萩ジオパーク(山口市萩市全域。2018年9月20日認定)

・外国発の「名所」



山口県長門市の元乃隅稲成神社。
2015年3月30日に米国のCNNが『Japan's 31 most beautiful places』（日本の最も美しい場所31選）として選出。これをきっかけとして外国人を含む観光客の参拝が急増中。



山口県下関市の角島大橋。
2000年11月3日開通。1780mと日本屈指の長さを誇る。北長門海岸国定公園内に位置することから、景観に配慮した構造となっており、その景観からテレビCMのロケ地として多く採用されている。クチコミによって、国内外に人気が拡散。市内有数の観光名所となっている。



北海道美瑛町の青い池。
1988年の十勝岳噴火後、火山砂防工事のためえん堤を建設、そこに川の水が溜まって偶然誕生したのがこの池のはじまり。当初は立ち入り禁止だったが、2010年可能に。その美しさが国内外にクチコミで広がり、またたく間に多くの観光客が訪れる人気スポットとなった。

・インバウンド戦略



いよいよ今夏にせまった東京オリンピック・パラリンピック。



2018年11月23日、パリで開催の博覧会国際事務局総会において、2025年の開催が決まった大阪万博。





日本の島ガイド

「SHIMADAS(シマダス)」 定価4,000円+税

15年ぶりの新版

1993年夏創刊の「島の総合案内書」。内容を充実させて最新情報を盛り込んだ15年ぶりの新版(2019年11月刊行)

島へのいざない

島のプロフィールはもちろん「みどころ」「特産品」「やど」「交通アクセス」などの島旅情報が全1,712ページに満載

島の百科事典としても

「人口」「面積」のほか「生活」「学校」「医療」「Iターン」など他のガイドブックにはない多様な情報を紹介

圧倒的存在感！

前版に比べて600島増の1,750島を掲載。机上版としても使える「島案内のスタンダード」

※人口知能(AI)などによるビッグデータの解析と、それに基づき関連づけられた商品や情報の提示といった作為的なつながりではなく、「偶然開いたページに掲載されていた島が、自分にとってかけがえのない場所となる」という、直感やひらめきなど人が本来もつ持つ力(セレンディピティ)に訴えかける一冊です。ぜひお手にとってください。

ご清聴ありがとうございました